

図書館からのお知らせ

*好評につき、毎月開きます。
「わらべうたの会 せっせっせ」
4月からわらべうたの会を毎月行うことになりました。

第2金曜日 10:30~11:00

トレーニングセンター「教養室」

「おはなしの会こぐま」は引き続き

第1・3金曜日に行います。

金曜日には図書館へGO!

*「家庭菜園のコツ」講座

今年も公民館と共催で、全2回行います。1回目は次の日程です。

4月21日(土)10:00~11:30

トレーニングセンター

「ふるさと大ホール」

講師：農山漁村文化協会

齋藤辰徳さん

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館へ!

BOOK No.34

編集=山形村図書館

当日参加もいっぱい! 大盛況!パーマカルチャー講座

春の雪が降った3月10日(土)、トレーニングセンターめばえの部屋は、図書館講座「パーマカルチャー」人の暮らしが環境を豊かにしていく」の参加者で大にぎわいでした。30人余りのみなさんが積極的に質問しながら、講師の話に耳を傾けました。

まずは『パーマカルチャー農的暮らしの永久デザイン』(ビル・モリソン著 農文協)の翻訳者、小祝慶子さんのお話。ビル・モリソンとのエピソードや、彼の「その土地に合ったデザイン、農法がある。日本の先達に謙虚に学んでほしい。」という思いを伝えてくださいました。

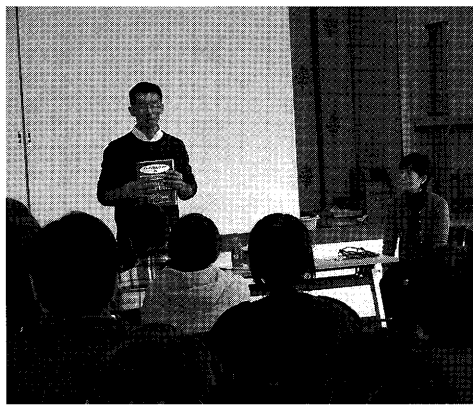
続いて、山梨県北杜市で、パーマカルチャーを実践している四井真治さんの登場です。4人家族の

暮らしを紹介していただきました。生活排水を浄化するシステム「バイオジオフィルター」の作り方や、生き物もどつてくるピオトープのエピソード。堆肥小屋でヤギや鶏を飼い、竹を伐採してヤギのエサや薪ボイラーに利用するなど。具体的な実践と工夫に、みなさん興味津々です。

「人間は、ほかの生き物に支えられるばかりではなく、ほかの生き物とともに場を豊かにすることができる存在だ。」というメッセージが伝わる講座になりました。

四井さんが実際に使っているシステムやモノの作りなどがわかる本も図書館に入りました。「人をふくめた生態系」をつくるための、暮らしのテキストともいえます。こちらもご利用ください。

『地球のくらしの絵本』①⑤
四井真治(農文協)



私のこの一冊

図書館利用者 田中 美穂

『九十歳。何がめでたい』

佐藤愛子(小学館)

BOOK総合

九十歳。



部門2017年間1位となったこの本の著者である佐藤さんが、私の祖母とほぼ同い年というところに惹かれ読んでみました。日常的な話があったり、いろいろな話があったり、いろいろなジャンルの話をズバツと斬り込んでいて、読んでいて気持ちよかったです。

人生の大先輩の言葉はスツと胸に入ってきて、とても励まされ、心が軽くなる場面が何度もありました。泣いて笑って一気に読み進められ、パワーをもらえる本です。みなさんもぜひ一度手に取ってみてはいかがでしょうか。

おすすめ新着本紹介

『さかなのたまご いきのこりをかけたただいさくせん』

内山りゅう(ポプラ社)

川の中をのぞくと、魚たちはあの手この手で卵を守っています。貝に管を差し込んで卵を産むニッポンバラタナゴ、オヤニラミに自分の卵も守らせる、ち



やっかりもののムギツク……。驚きの作戦を写真絵本で紹介! 『きのうえのおうちへ』

『ようこそ!』ドロシア・ウォーレン・フオックス(偕成社)

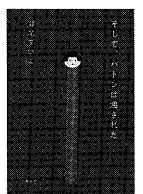
ツイグリーさんは木の上のおうちで、犬やくまたちと暮らして

いました。あるとき、大雨で町が海のようになってしまう、ツイグリーさんは、町の人たちを助けようと奮闘。アメリカで50年間愛されている絵本です。



『そして、バトンは渡された』

瀬尾 まいこ(文藝春秋)



父親が3人、母親が2人。血の繋がらない親の間をリレーされ、しかしいつでも両親を愛し、愛されていた森宮優子。心温まる物語。

『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎(光文社新書)

バッタ被害を食い止めるため、そして「バッタに食べられたい」という野望をかなえるためにサハラ砂漠に乗り込んだ昆虫学者

が、バッタと現地の事情を相手に繰り広げた死闘の日々をつづりました。2018新書大賞に選ばれました。

